

◇ 評価規準		
評定・妥当性	A：適切である	B：概ね適切である
	C：さらに工夫が必要	D：改善が必要
達成状況	A：十分達成している	B：概ね達成している
	C：やや不十分である	D：不十分である

令和8年2月24日
 恵庭市立松恵小学校学校運営協議会

令和7年度 恵庭市立松恵小学校 学校関係者評価書

I 学校経営方針の妥当性について

今年度の学校経営方針について、設定の理由を元に妥当性についての評価をお願いします。

方針	職員による自己評価			学校関係者評価	
	妥当性	○ねらい ●課題 ◇改善策	評定	自己評価に対する見解	
①子ども・保護者・地域から信頼される学校づくりの推進 (情報発信・情報共有・対話・評価)	A	○小規模校ならではのよさや、ユネスコスクールとしての特色ある活動、緑の少年団の取組などを積極的に発信する事が保護者や地域の信頼に繋がる。 ○学校の状況や児童の様子について情報を共有すること、対話によって理解を深めたり思いを受け止めたりする事がよりよい教育環境づくりに繋がる。 以上の理由から経営方針として妥当だと考える。 ●地域の深刻な少子化に伴い、入学児童数が減少している。 ◇学校の取組やよさを市内幼保の保護者にも知っていただく事が特認入学希望増に繋がると考え、幼保との連携の視点を経営の重点に位置づけていく。 ◇活動の妥当性を得るために、客観的な評価を取り入れ分析していく。	A4 B1 C0 D0	・松恵小らしいよさをこれからも大切にしていって欲しい。 ・地域や保護者の皆さんがよく関わり、支えてくれている学校だと感じる。 →学校経営方針として妥当である。 小規模校ならではのよさが多くの人に伝わるよう、次年度も積極的な発信をしていくと良い。	
②一人一人に、資質・能力を定着させる教育活動の推進 (授業・生徒指導・支持的学級風土・学級経営・道徳・特別活動)	A	○将来、社会で活躍する人材育成のためには教育課程を通した、必要となる資質・能力の確実な育成と定着が求められる。 ●少人数のため人間関係が固定化し、関わりが狭くなりがちである。また多様な価値観に触れさせるために、学習集団の工夫や外部との連携が求められる。 ◇縦割り活動の充実、隣接学年との合同授業、積極的な外部講師や地域人材の活用により、豊かに人と触れ合う教育活動を教育課程に位置づけていく。	A3 B1 C1 D0	・一人一人に目が行き届く。昔から変わらないよさであると感じている。 ・固定された人間関係の中で意見をぶつけ合うのが苦手になる児童がいるので、少人数こそ多様な意見を聞く力をつけてほしい。 ・学習面での児童の理解度の差が目立つ(特に高学年)。 ・学校へ来る度に温かく受け入れてくれている。幼児に声をかけてくれる様子からも児童の成長を感じた。→学校経営方針として概ね妥当である。児童相互の関わりを大切に、対話を通した資質・能力の育成に努めていくと良い。	
③家庭・地域と連携した「ふるさと教育」の推進 (各教科・総合的な学習の時間・行事・農園活動・ユネスコスクール・緑の)	A	○ふるさと教育は恵庭市の教育理念及び学校教育ビジョンの中心に位置づけられており、恵庭市が設置する公立校として学校経営方針の柱の一つとして設定している。 ●ふるさと教育は学校のみで推進できるものではなく、地域や関係機関との連携が必須である。 ◇今後も関係機関や地域人材との連携に	A4 B1 C0 D0	・農園活動ではレベルの高い活動が行われている。 ・今後も松恵小ならではの地元の方との交流を大切にしていってほしい。 →学校経営方針として妥当である。特色ある活動として、今後も農園活動を軸に、ふるさと教育を推進していくと良い。	

少年団・カリキュラムマネジメント)		よりふるさと教育の充実を図っていく。 ◇教育効果を高め、学習効率を高めるために、関連した学習内容を有機的に結び付ける教育課程の編成を行っていく(カリキュラムマネジメント)。		
④全教職員の経営参画と創意工夫による教育活動の推進 (分掌業務・運営委員会・職員会議・行事・学級経営)	A	○質の高い教育活動を展開するとともに、学校が抱える課題への正確かつ迅速な対応を推進するためには、全職員が役割・責任を自覚し、学校経営に参画していく事が求められる。 ●職員数が限られるため、一人が担う業務が多岐に渡る。 ◇教育効果を高める教育課程の管理と、職員が担う役割の明確化、チームでフォローし合える協業体制の構築を図る。	A4 B1 CO DO	・先生方はみなよくやってくれていると感じている。 →学校経営方針として妥当である。次年度も教育効果を高める教育課程の管理と、協業体制の構築を図っていくと良い。
⑤子どもと向き合う時間を確保するための働き方改革の推進 (業務精査・行事精選・物品管理整頓処分・データ管理整理処分・環境整備・タイムマネジメント)	A	○働きやすい環境を整えることで、児童と教師が向き合う時間を確保でき、個々のニーズに対応した教育が可能となる。学習効果の向上や職員の健康維持にも寄与することで、より良い教育環境を提供する事に繋がる。 ●スクールバスの関係で児童の在校時間が長く、業務時間の確保が難しい。 ●限られた時間の中で滞らせずに業務を推進する必要がある。 ◇左に示す項目に加え、業務効率化と業務の優先順位を意識したタイムマネジメントの視点を持って学校運営を進める。	A5 BO CO DO	・教育の質を高めるためにも、先生方の働く環境は大切である。 →学校経営方針として妥当である。職員が十分にパフォーマンスを発揮できるように、働きやすい職場環境の維持・改善に努めていくと良い。

2 重点教育目標の具現化に向けた取り組みについて

学校経営方針を具現化するために行った、今年度の取組について評価をお願いします。

重点的な取組	職員による自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	○成果 ●課題 ◇改善策	評定	自己評価に対する見解
①子ども・保護者・地域から信頼される学校づくりを推進するために	A	○地域や保護者への積極的な情報発信を行う事ができた。保護者アンケートでも高い評価を得ると共に、11年ぶりとなる入学予定者の定数達成を果たすことができた。 ○校内研究によって職員の意識とスキル向上を図った。昨年度課題となっていた子ども自身の振り返り活動について充実を図った。保護者アンケート、児童アンケートともに多くの項目で昨年を上回る評価が得られた。 ●保護者アンケートの記述欄から、学校の取り組みが十分に伝わっていない面があることが読み取れる。 ◇意見や要望のうち、実行可能なものは学校運営に反映させるとともに、本校の教育について理解が得られるよう丁寧な説明に努める。	A4 B1 CO DO	・情報発信においては、松恵小に興味関心のある人達へはこれまで以上に伝わったのではないかな、と思っています。一方で、在校生やその保護者の方々から信頼されているのかどうかは、はっきりと回答は難しいなと思いました。その理由や背景について自分でも振り返ってみたいと思います。 →保護者アンケートからも学校運営に対する評価は昨年度よりも高まっている。今後も子ども・保護者・地域との対話を重ね、信頼される学校づくりに努めていきたい。

<p>②一人一人に、資質・能力を定着させる教育活動を推進するために</p>	<p>B</p>	<p>○客観的な資料も用いて子どもの実態を把握し、少人数制のよさを活かした個別最適な学びの充実に努めた。</p> <p>○学習活動のねらいを整理し、全職員で共有した。身につけさせたい資質・能力を明確にすることで、効果的な指導を行う事ができた。月別の児童ふり返りアンケートから課題を見だし、翌月の指導に反映させてきた。</p> <p>●生成 AI の利活用など日々変化していく教育的ニーズへの対応や、より効果的な教育家庭の編成が求められる。</p> <p>●児童が自ら学ぶ態度の育成、健康・運動に関する指導についての課題が見られる。</p> <p>◇児童の主体的な学びを生み出すとともに、変化に対応する力を身につけさせていくために、校内研究を基板とした研修により教師の実践力を高めていく。</p> <p>◇日常観察に加え、客観的な分析を元に児童一人一人の状況や成長・変容を捉えていく。全教職員で情報を共有し、児童の育成に関わっていく。</p>	<p>A3 B1 C1 DO</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み書き計算の定着は先生達のおかげと本人の力で身に付いてきたかなと思います！ただ、自分も難しいなどはありますが、そもそも、子供達へ、なぜ資質や能力を定着する必要があるのか？という土台作りが子供達にあればその後の取り組みも後押しできるかなと思いました。 ・実際、AIを活用した教育は、行われているのか？子どもの個性が失われる事への危惧を持っている。 ・児童が使っているパソコンの劣化が気になります。(山口委員) ・連携事業で松恵小に何度か伺い、少人数制のよさを感じた。地域の方の関わりも感じた。今後は、園からも連携を図っていきたい。 <p>→子どもの将来を見据え、子どもを主体とし、「何のために学ぶか」「どのような力を身につけていくか」を共有しながら、教育活動を進めていってほしい。</p>
<p>③家庭・地域と連携した「ふるさと教育」を推進するために</p>	<p>A</p>	<p>○保護者や地域と連携しながら、それぞれの役割やできる事を確認し、より効果的な学習活動となるよう改善を図ることができた。</p> <p>○幼稚舎えるむの協力により、幼保との連携を充実させることができた。</p> <p>○学習のねらいに合った外部団体や専門家と連携することによって、学習活動の充実に図ることができた。</p> <p>●次年度から、これまで以上に中学校との繋がりを強めていく小中一貫教育の実施が求められているが、特認校としての特質から児童が実際に進学する複数の中学校との連携が図りづらい。</p> <p>◇校区にある恵北中学校、島松中学校との連携をベースに、市内各中学校区の動きについてもアンテナを伸ばしていく。</p>	<p>A4 BO C1 DO</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これは、もう少しできるのではないかと期待を込めて。ただ、それは、先生達にもっと何かして欲しいという要望ではなく、カリキュラムの中にもっと地域の方々を組み込める余地はあるのではないかと、そこに調整する仲介役がいたらそれが可能に出来るのではないかと感じています。味噌づくりなど、今やっている活動でも地域の方と連携できると良いと感じてる。仲介役がいると良いと感じる。 →運営委員に地元の人間が参加していることをとっかかりに繋げていくと良い。 ・防災の取組を地域と連携して行いたい。 <p>→将来の恵庭市民を育成する視点を持ち、地域やCSと連携しながら魅力あるふるさと教育を推進して欲しい。</p>
<p>④全教職員の経営参画と創意工夫による教育活動を推進するために</p>	<p>B</p>	<p>○関連した業務をまとめるなど、効率的な業務分担を行う事ができた。また、担当職員にのみ荷重がかからないよう、フォロー体制の構築にも務めることができた。</p> <p>○職員が毎日目にする日報や、毎週全職員による情報共有の場を設けることで、参画意識を高く維持することができた。</p> <p>●一人が担う業務量が多く、負担が大きい。業務によってはフォロー体制が十分に構築さ</p>	<p>A4 B1 CO DO</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議や校内研修？の内容については分かりませんが、少ない人数のなかで、とても一生懸命取り組まれていると感じます。 ・全生徒数が、100人きれると職員が一人減らされると聞いています。そこを何とか、教職員の人数を減らさないように、

		<p>れていない。</p> <p>◇今年度の取組を根拠とし、目指す子ども像をより明確化する。目標の実現に向かう機動的・組織的な職能集団の形成を目指す。</p>		<p>出来ないのでしょうか？教職員の人数も少ないと、聞いておりますが？</p> <p>→児童数の確保は学級数や職員数にも直結する課題である。魅力ある学校づくり、質の高い教育活動の実現に向け、今後も機動的・組織的な職場づくりに努めていって欲しい。</p>
⑤子どもと向き合う時間を確保するための働き方改革を推進するために	A	<p>○PTA や CS の協力により、学校が担うべき業務と、職員以外にお願いする業務の棲み分けが進んだ。</p> <p>○スクールバスの運用見直しにより、適正な勤務時間管理に繋がった。</p> <p>○働き方改革推進チームを中核とした校内教育環境の整備と、校務運営委員会の効果的な実施により、業務の効率化が図られた。</p> <p>●地域児童が減少する中、校区地域との連携が希薄化していかないよう工夫が必要。</p> <p>◇ICT を活用した校務の DX 化や、教育資材・データ等の整理による業務の効率化を図る。</p> <p>◇教科等の学びと行事の取組を有機的に結び付け、横断的な指導を行うカリキュラムマネジメントにより、時間を有効活用するとともに教育効果の最大化を目指す。</p> <p>◇余剰時数と日課の見直しによって、授業や行事の準備にかかる業務時間を確保する。</p> <p>◇保護者・地域、幼保等との連携について、学校からの一方的なお願いに陥らず、それぞれが主体となり、益のある活動となるよう工夫していく。</p>	A3 B1 C1 D0	<p>・これは、松恵小の先生達や事務の方々だけで達成するには限界があると思ひ、市に向けての回答です。例えば、市教委への報告業務等、外部への対応に追われているような印象です。事務作業に充てている分を目の前の子供達に使う時間が増えて欲しいと思っています。</p> <p>→教育の質を高めるためにも、働きやすい職場環境の維持・改善に努めていってほしい。また、学校運営協議会としても、学校と課題を共有し、児童の育成に関わっていききたい。</p>

その他

- ・園として、来年度も連携をしていただけたらと思っています。なお、架け橋期のカリキュラム作成も進めていけたらと思っています。よろしくお願ひします。(幼保こと小学校の連携に向けた資料提供あり)

3 学校運営協議会会長及び学校長の意見

会長	<p>松恵小では子ども達が元気に過ごしている様子が見られ、嬉しく感じている。知識ばかりの学習に陥ること無く、様々な経験をさせながら、元気に体を動かすことを楽しいと感じる子ども達に育てて欲しいと願っている。</p>
校長	<p>今年度の学校活動をもとに次年度の重点目標を『「言葉」と「心」をみがき、認め合い高め合う子どもの育成』とした。子ども達が自信を持って次のステージへ踏み出していけるよう、どんな場所でも、どんな相手に対しても、認め合い高め合う力を身につけさせていきたい。</p>